

業種	情報・通信機器メーカー
活用分野	ノートPCの紛失・盗難時のセキュリティ対策
テクノロジー	PHS、インターネット

# ノートPCの社外持ち出し規制緩和へ 電源OFFでもHDD内のデータを消去

ノートPCを用いて社外で情報活用することは業務のスピード化に大きく貢献するが、会社として心配なのがセキュリティ面だ。そこで、紛失・盗難の備えとなる新しい情報セキュリティソリューションが考案された。紛失等の連絡をすると、遠隔操作でPC本体に内蔵したPHS通信モジュールによりHDDのデータを消去する「データ消去」とPCを起動させない「PCロック」を可能にした、富士通の「CLEAR-SURE」(クリアシュア)である。

富士通では、CLEAR-SURE対応のノートPC製品を2009年9月に発売し、同年12月には自社内の持ち出し用PCへの適用を開始した。

実は、CLEAR-SUREは当初から外販と自社活用の両方が視野に入れられ、「PC開発部隊と社内システム管理部門が密に連携して、実際の仕様策定や機能開発が進められました」と、富士通・パーソナルビジネス本部ソリューション開発統括部・統括部長代理の坂巻健士氏は説明する。

## 世界初! 電源オフでも指示が可能 “特殊な状況”への対応機能を充実

CLEAR-SUREは、ウィルコムが開発した超低消費電力の通信モジュールの採用などでPHSの常時待受を実現。世界で初めて、ノートPCが電源オフの状態でもデータ消去やPCロックが可能となった。坂巻氏は、「ノートPCのパネルが閉じられている状態でも電波を安定して受信できるよう、内蔵アンテナのチューニングにも細心の注意を払いました」という。

PCへのデータ消去/PCロック指示の実行結果がレポートとして出力される仕組みも備えた。その内容には最終ログイン日時やPHS基地局を利用した位置情報も記載されるので、紛失後に誰かが操作したかどうか、所在場所に心当たりがあるかどうかなどを確認できる。

さらに、PCが通信エリア圏外にある場合を考慮し、ログインパスワードを一定回数間違えると自動的にPC



富士通・パーソナルビジネス本部ソリューション開発統括部統括部長代理 坂巻健士氏

「社内システム管理部門との密連携によって、実務現場の悩みに応える仕組みを作り出すことができた」

ロック・データ消去が実行される仕組みも付加した。

管理用サーバは、ネットワーク上にある富士通の設備を利用。サーバ使用料はPC購入代金に含まれる(標準で1年間、オプションで最長5年)ので、初期投資・運用コストの両面でメリットを得られる。

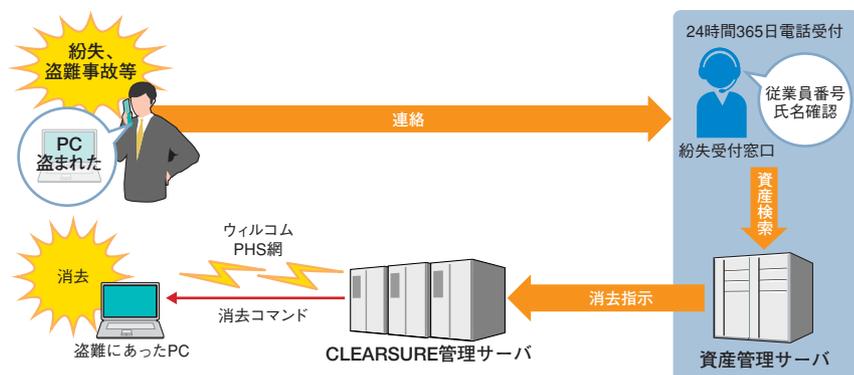
## 利用企業はすでに100社超 営業用に5万台の大量採用事例も

富士通では、まず7000台を置き換え、2013年までにはグループ企業も含め約7万台に展開する計画だ。

一方の外販においても、生命保険会社が営業職員用の新しい携帯端末として採用し、2012年1月から約5万台を順次配備していくと発表。さらに坂巻氏によれば、100社以上で試験導入が始まっているという。

情報セキュリティ管理の問題から、企業ではノートPCの持ち出しを禁止・制限する風潮が強まっているが、「CLEAR-SUREがモバイルコンピューティングにおけるノートPCの復権の一助となり、より多くの企業が業務効率化のメリットを享受してくれれば」と、坂巻氏は期待を高めている。

図 CLEAR-SUREを用いたPCデータ消去の流れ(富士通自社活用の場合)



※本システムの外販用は連絡経路が異なる

### Profile

富士通株式会社 http://jp.fujitsu.com/	本社所在地 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター	事業内容 通信システム、情報処理システム、電子デバイスの製造・販売及びこれらに関するサービスの提供
	設立 1935年6月20日	
	資本金 3246億2507万5685円(2009年3月末現在)	